

家紋、水色桔梗、

家傳にいはいはく、土岐の家紋、本は白色也、其後水色をもちゆ、むかし土岐の氏族、秋の頃野原にて合戦の時、桔梗の花をとりて甲にさし、勝利をうるゆゑ、子孫吉例として、桔梗の花を水色の中におきて定紋とす。

〔鶯峯文集記十七〕代太田藩記太田道灌軍扇團扇事津守資次

頃聞常陸國府中總社明神庫内藏古團扇傳稱我家先祖太田左衛門入道道灌軍配之團扇也、懇請借見之、中略於是新製其裏撒金以飾之、繪家紋桔梗於其間、謹藏之、而返納神庫、

〔寛永系圖七〕平姓杉原 家紋、藤丸、

〔寛永系圖七〕豊臣姓木下 家紋、胡馬獨面高、

〔葵御紋考〕王氏を出で源氏を賜ひ、臣に列し給へるは、嗟峨仁明文德、清和光孝、宇多醍醐、村上、花山、三條、順德、後深草等ましますといへ共、御紋は皆笹輪、幢なり、

〔寛永系圖十八〕村上源氏一尾 家紋、久我ヨリハ龍膽 今地扇之丸

〔寛永諸家系圖傳三十八〕石川

家紋、丸の内に龍膽、

〔筑紫軍記四〕一條康政卿被挾、家臣出奔之事

元親先祖ハ、秦ノ始皇帝ノ末孫、本朝ニ來服シテ朝廷ニ仕ヘケレバ、秦氏ト稱ス、十五代ノ裔孫、川勝秦大臣廣隆聖德太子ノ臣其末流、秦能俊、始テ土佐ノ國ニ下リ、長曾我部江村ノ庄、井枝郷野田、吉原ヲ給領ス、此時給命ヲ蒙テ參内シケリ、則尊盃ヲ頂戴ス、其盃中ニ鳩酢草一葉浮ブ、是ヲ拜シテ家ノ紋トス、

〔鹽尻六〕モツカウノ紋、木瓜ト書、翠簾帽額ノ事 或問もつかうの紋、木瓜と書、吾子家の紋の傳を